

チャイナ・ベンチャー・キャピタル&プライベート・エクイティ・フォーラム東京

中国创业投资暨私募股权投资

东京论坛 2010

東アジア投資・金融フォーラム

主催



後援

中華人民共和國
駐日本國大使館



協賛



西村あさひ法律事務所



会場：シェラトン都ホテル東京 | 会期：2010年9月14・15日 | 日本語サイト：www.jcd.co.jp/cvcf2010_tokyo/

フォーラム概要

サブプライムローン問題から2年、欧州の主権債務危機から半年がたとうとしている。“時間”は、世界における経済復興の歩みのみならず、アジア太平洋地域の投資市場の構造までも変えていく・・・。

欧米ファンドのアジア進出

欧米系大手ヘッジファンドが日本、シンガポール、香港に次々と参入し、欧米の FOF や LP はアジア太平洋地域のいたるところに足跡を残している。

彼らは巨額の資金と資本運用の経験を携えながらも、現地の政策や法規による諸制限に直面し、その才能を十二分に活かせていない——彼らが切実に望んでいるのは、資金を可能な限り合法的かつ迅速にアジア・太平洋地域に投じ、アジア・太平洋地域における経済復興の成果を分かち合うことである。

共存は不可能なのか？

アジア太平洋地域の各地で現地のベンチャーキャピタルが急速に成長しているのは、単なる欧米系 VC のアジア太平洋地域における現地化経営への一種の挑戦なのか？それとも欧米系 VC のアジア太平洋地域における主導権を大きく覆そうとしているのだろうか？

欧米の年金基金や保険会社、ファミリービジネス系投資会社による投資傾向が保守的な中、アジアの潤沢な資金流動性や現地 VC の急速な成長は、アジア太平洋地域におけるベンチャーキャピタルの主導権がすでにひそやかに移行したことを表しているのではないだろうか？外資系 VC の急務は、アジア太平洋地域の投資における自らの主導的立場を如何に守るかということである。

淘汰の時代？

アジア太平洋地域において、ベンチャー投資が次世代エネルギー業界のバブルを招いているのか？それとも次世代エネルギー業界こそが、IT 業界に続く次の時代を超えて注目される投資業界なのか？欧米マーケットではすでに飽和状態となった新興高度成長産業のうち、注目に値するものは、アジア太平洋地域にどれだけ残っているのだろうか？アジア太平洋地域において、レバレッジド・パイアウトやメザニン・キャピタルなどの新たな金融手法は、いつ頃から盛り上がりを見せるのだろうか？

2010 年度チャイナ・ベンチャー・キャピタル&プライベート・エクイティ東京フォーラムが、あらゆる疑問や様々な問題について解き明かします。2010 年 9 月 15 日、Zero2IPO グループと JCD が日本、中国、韓国、シンガポールなどの国と地域の著名な経済学者、政府関係者、経験豊富な投資家等と手を携え、目下のアジア太平洋地域における経済復興の見通しと投資業界が直面している様々な問題を討論、分析、予測し、また現在注目されている話題についても深く分析いたします。

アジア経済の発展のため全面的に協力し、新たなアジアの時代の構築に向けて共に出発いたしましょう！

アジェンダ

2010年9月14日 CVCF2010 東京・懇親ゴルフコンペ 霞南ゴルフ倶楽部

07:00-08:00	受付
08:00-08:30	開幕式
	開幕挨拶: 徐志敏氏 株式会社ジェー・シー・ディ 代表取締役社長
	来賓挨拶: 巖 浩氏 イーピーエス株式会社 代表取締役社長
	始球式: 鄭躍文氏 株式会社本間ゴルフ 取締役副会長
	記念撮影
08:30-16:30	ゴルフコンペ
16:30-18:00	親睦会
	表彰式: 西谷浩司氏 株式会社本間ゴルフ 代表取締役社長
18:00	終了

2010年9月15日 CVCF2010 “東アジア金融・投資フォーラム” シェラトン都ホテル東京

09:30-10:00	受付
10:00-10:10	主催者挨拶
	倪正東氏 Zero2IPO グループ 創業者、CEO 兼 総裁
10:10-10:20	徐志敏氏 株式会社ジェー・シー・ディ 代表取締役社長
10:20-10:30	来賓祝辞 I: 大塚耕平氏 内閣府 副大臣
10:30-10:40	来賓祝辞 II: 齊藤博氏 株式会社東京証券取引所グループ 取締役兼代表執行役社長
10:40-11:10	基調講演 I: 祁斌氏 中国証券監督管理委員会 研究センター主任
11:10-12:10	パネルセッション I: 東アジアの経済協力を強化 ～経済復興の成果をより強固なものに

世界銀行発表の「東アジア・大洋州地域 半期経済報告書」は、在庫の増加や国内需要の高まり、輸出の増加を受け、東アジア地域の生産額、輸出額は金融危機以前の水準にまで回復、あるいは超えたとした。また、2010年の東アジア発展途上国の経済成長率は8.7%に達し、全世界の4.1%を遥かに超え、地域経済の成長は明るい見通しであると予測した。

- 東アジア諸国の経済復興を如何に見るか。
- 金融危機から東アジア諸国は今後の経済協力についてどのような教訓と啓発を得たのか。
- 東アジア諸国は互いに手を携え、経済復興をより強固なものにするため、どのような施策を採ったのか。
- 中国-ASEAN 自由貿易地域(CAFTA)の発足、および総額 100 億米ドルの“中国-ASEAN 投資協力基金”は東アジア諸国にどのような変化をもたらすのか。

パネリスト:

呂 譚平氏	Zero2IPO グループ 副会長(モデレータ)
勝又幹英氏	モバイル・インターネット・キャピタル株式会社 代表取締役社長
姜 敬求氏	KTB 投資証券株式会社 東京事務所 所長、常務
周 志雄氏	キートン・ベンチャーズ ファウンディング・マネージングパートナー
宋 安瀾氏	ソフトバンク・チャイナ・ベンチャー・キャピタル マネージング・ジェネラル・パートナー
陳 友忠氏	アイディ・テック・ベンチャーズ ファウンディング・マネージングパートナー

12:10-12:40	基調講演 II: 鄭躍文氏 科瑞集団 董事局主席、中華全国工商業聯合会 国際経済協力商会準備室室長
12:40-14:00	ランチタイム
14:00-14:30	基調講演 III: 新成長戦略における東アジア発グローバルベンチャーへの期待 八尋俊英氏 経済産業省 大臣官房参事官 兼 経済産業政策局新規産業室

14:30-15:30

パネルセッションII: 勃興する中国の消費パワーを掴む ～高まる地域経済の相互依存

継続的な財政・金融刺激策と世界貿易の回復の影響により、中国の経済は迅速かつ安定的な成長傾向を見せている。人民元の価値の上昇や平均収入の急激な増加が、中国人の購買意欲と消費レベルに多大な影響を与えた。自動車や住宅など高額な商品へのニーズがある程度満たされた今、中国人による海外への旅行、消費、そして巨大な購買力が周辺各国に莫大な影響と刺激を与えている。東南アジアへの旅行・買物ブームを経て、最近では日本の温泉やグルメ、精巧な日本製品が高い人気を集めている。

- 中国人の個人消費の増加が日本や韓国等周辺国家に及ぼす影響は。
- 中国人の日本観光ブームに対して、日本の企業や商店の示した反応とは。
- 中国人への個人観光ビザ発給要件緩和は、日本政府の“開国”への更なる前進と、観光立国実現を示しているのか。
- 中国人による日本不動産の大量購入は、日本の地価あるいは不動産バブルに影響を与えるか。

パネリスト:

徐 志敏氏	株式会社ジェー・シー・ディ 代表取締役社長(モデレータ)
勝又正秀氏	観光庁 国際交流推進課 外客誘致室長
白石 茂氏	株式会社 JTB 関東 本社営業部 国際事業室 中国部長
鈴木 勝氏	桜美林大学教授 大阪観光大学名誉教授
張 麗玲氏	株式会社大富 代表取締役社長
山本治男氏	株式会社ラルゴコーポレーション 代表取締役

15:30-15:50

基調講演IV: 許萍氏 バンガー・インベストメント・パートナーズ ジェネラル・パートナー

15:50-16:00

コーヒーブレイク

16:00-17:00

パネルセッションIII: 投資の経験と教訓を共有 ～投資ルートを共同開拓

東アジアの急速な経済成長と産業構造の変革は投資会社に有益な情報をもたらす。経済の急激な成長は VC/PE 市場の成長の潮流を如何に推進させるのか。人民元ファンドの急増は中国投資市場の構造にどのような影響をもたらすのか。また、中国の外資企業投資関連の法規や政策如何に読み解くのか。

- 金融危機の後、次なる東アジアの投資チャンスの波はどこにあるのか。
- 株式投資が“冬”から“夏”に急激に変化したことをどう評価するのか。
- 新たな経済構造が形成される中、投資会社は如何にチェーン業界、クリーンテクノロジー、TMT などの分野でチャンスを見出すのか。
- 中国経済の迅速な成長は日本の投資会社にどのようなチャンスをもたらすのか。

パネリスト:

呉 雅俊氏	日本ベンチャーキャピタル協会 会長(モデレータ)
夏 明晨氏	東京海上アセットマネジメント投信株式会社 プライベートエクイティ運用部 シニアファンドマネージャー
周 政寧氏	JAFCO Asia 中国北部担当 マネージング・ディレクター
曾 之傑氏	CDB-CITIC キャピタル・インベスト・マネージメント マネージング・パートナー兼ジェネラル・マネージャー
長 尾収氏	三井物産株式会社 金融市場本部企業投資部長
林 棟梁氏	IDG キャピタル・パートナーズ パートナー

17:00-18:00

パネルセッションIV: クロスボーダーM&A の取捨選択 ～全体戦略を如何に見極めるか

国際金融危機の後、日本の資本市場と不動産市場は大幅に落ち込み、数多くの優良企業の企業価値は著しく過小評価され、資金調達力も低下した。一方、中国は資本市場が持続的に成長にするつれ、中国企業の支払能力と購買意欲が日増しに強まり、多くの企業がこの千載一遇のチャンスを掴むべく、クロスボーダーM&A が加速している。

- 欧米企業の買収と比べ、中国企業による日本企業買収にはどのような特徴があるか。日本企業買収のチャンスとリスクはどこにあるのか。
- 日本の政財界は中国企業による日本企業の買収をどう見ているか。中国企業はどう対峙すべきか。
- クロスボーダーM&A 後、全体戦略を如何に見極めるべきか。日本企業買収の注意点とは。中国政財界で改善すべきことは。
- 日本企業がクロスボーダーM&A において培ってきた豊富な経験と教訓は、新たな M&A チャンスの見極めにどのような手助けとなるか。
- 中国企業の PRADA 買収阻止事件から見る、日本企業買収で直面する障壁とは。

パネリスト:

張 和伏氏	北京市天達律師事務所	パートナー弁護士(モデレータ)
王 遠耀氏	株式会社キング・テック	代表取締役社長
大石和也氏	西村あさひ法律事務所	弁護士
高橋昭夫氏	大和証券キャピタル・マーケッツ株式会社	専務取締役
劉 二海氏	レジェンドキャピタル	マネージング・ディレクター
劉 宝傑氏	徳同富坤ファンド	パートナー

18:00-20:00

懇親会**ゴルフ交流会表彰式**

20:00

フォーラム閉会

プログラムの内容、講演者については、やむを得ず、断りなく変更する場合がございます。予めご了承ください。